第 29 回 日本学校教育相談学会 九州・沖縄地区研修会「沖縄大会」

〈 二　次　案　内 〉

大会テーマ「社会的絆を紡ぐ学校教育相談」

1　目 的

(1) 学校教育相談学会会員相互の研修と情報交換を行い、会員の資質の向上を図る。

(2) 各支部の研修活動を充実させることで、学校教育相談の普及・発展を図る。

2　主 催　日本学校教育相談学会九州・沖縄地区連絡協議会 沖縄県支部

共 催　琉球大学教育学部特別支援教育専修

3　後 援　沖縄県教育委員会、那覇市教育委員会、日本教育公務員弘済会沖縄県支部

4　期 日　令和５年 11 月 18 日(土)・19 日(日)

5　会 場　沖縄県総合福祉センター（〒903-0804 那覇市首里石嶺町 4-373-1）

※モノレール石嶺駅より徒歩９分（宿泊は那覇市内のモノレール駅近くが便利）

6　日程と研修内容

【第１日目　11 月 18 日(土)】 場所:1F ゆいホール

11:00　12:00　13:00　13:30　16:30　17:30　20:00

理事長会	受付	開会行事	分科会 (各分科会会場)	休憩 準備	懇親会

A 分科会　教育的支援を必要とする子どもへの「具体的な指示」
琉球大学教育学部特別支援教育専修　權 偕珍 先生・照屋 晴奈 先生・矢野 夏樹 先生

B 分科会　学校における不登校や子どもの貧困への対応の在り方
名護市教育委員会学校教育課　神山 英輝 先生

C 分科会　ウェルビーイング視点での「ネット・ゲーム依存」
一般財団法人ワンネスグループ　三宅 隆之 先生

D 分科会　インクルーシブ教育の視点での学級経営と学習支援～ポジティブな行動支援と学習の個別最適化を通して～　琉球大学教育学部　下條 満代 先生

【第２日目　11 月 19 日(日)】場所:1F ゆいホール

9:00　9:30　11:20　11:30

受付	記 念 講 演 「生徒指導提要」の改訂をふまえたこれからの生徒指導・教育相談の方向性　関西外国語大学教授　新井 肇 先生	閉会行事

7　参加費

○２日間参加：3,000 円　（非会員：4,000 円）

○１日のみ参加：2,000 円　（非会員：3,000 円）

○懇親会：4,000 円　（ぱいかじ本店 那覇市おもろまち）

8　申込はこちら

https://forms.gle/ovPXBH5SGYJpYygv8

お問い合わせはこちら
日本学校教育相談学会沖縄県支部
事務局　當眞正太
kyousou.okinawa@gmail.com

9　研修の概要

【第１日目】

A 分科会　教育的支援を必要とする子どもへの「具体的な指示」
琉球大学教育学部特別支援教育専修　權 偕珍 先生・照屋 晴奈 先生・矢野 夏樹 先生

包括的な教育的支援を必要とする多様な子どもたちが、学校種を問わず増加しています。彼らが必要としている「支援」とはどういったものでしょうか？分科会の前半では、多様な子どもの実態把握や支援体制の作り方についてお話しします。後半は、特別支援教育でよく言われる「具体的な指示」のあり方について、体験型のワークを行ってもらい、支援の必要な子どもたちに届く「指示」について考えていきます。

B 分科会　学校における不登校や子どもの貧困への対応の在り方
名護市教育委員会学校教育課　　神山 英輝 先生

近年、不登校や子どもの貧困などが、教育現場において大きな課題となっています。その背景や特徴について理解を深めながら、どのような対応、支援ができるのかを、具体的事例等を通して学びます。

C 分科会　ウェルビーイング視点での「ネット・ゲーム依存」
一般財団法人ワンネスグループ　　三宅 隆之 先生

ネット・ゲーム依存の根底には、その人自身の「精神、身体、社会的健康（＝ウェルビーイング）の低下が考えられます。依存による問題への直面化を促し、生きがいを増やしていく支援が依存脱却の可能性を高めます。同時に、保護者側も自身のウェルビーイングを高めた上で子どもとの関わりを行うことが効果的と考えられます。分科会では、簡単なワークを交えて、子ども・保護者双方へのウェルビーイングアプローチをお伝えします。

D 分科会　インクルーシブ教育の視点での学級経営と学習支援～ポジティブな行動支援と学習の個別最適化を通して～
琉球大学教育学部　　下條 満代 先生

インクルーシブ教育の推進が謳われている中、特別な支援を必要とする児童生徒を含む、多様な子どもたち一人ひとりへの丁寧な支援のあり方が求められている。
ポジティブな行動支援と学習の個別最適化を行うことにより、誰も排除することなく共に学ぶことのできる学級環境をつくった小学校の事例を参考に、インクルーシブ教育の視点での学級経営や学習支援について考える。

【第２日目】

記念講演 「生徒指導提要」の改訂をふまえたこれからの生徒指導・教育相談の方向性
関西外国語大学教授　新井 肇　先生

「生徒指導提要」が 12 年ぶりに改訂された。改訂の背景として、第一に、社会環境が大きく変化し、児童生徒が抱える課題の深刻化がみられることが挙げられる。さらに、①児童生徒が変動社会に対応する力を身につけるために生徒指導ができることは何か、②多様な背景をもつ児童生徒が増加する中で共生社会の実現を目指す生徒指導をどう進めるか、③児童生徒をめぐる法令の成立・改正を受け、法の理解に基づく生徒指導をどう実践するか、④働き方改革と生徒指導の充実とをどう両立させるのか、という 4 つの問いが学校に突きつけられていることが指摘できる。そこで、改訂の背景と新たに示された方向性をふまえ、今、生徒指導・教育相談において教職員に求められていることは何か、ということについて考えてみたい。